

## 2・九州国立博物館

谷 豊信 九州国立博物館 学芸部長  
 今津 節生 九州国立博物館 学芸部 博物館科学課長  
 臺信 祐爾 九州国立博物館 学芸部 文化財課長

## 1. 参加の体制

平成24年7月20日の第5回救援委員会全体会議において、福島県に設定された警戒区域内での文化財救出作業を行うことが決まった。九州国立博物館はこの作業に積極的に参加することにし、8月から9月にかけて職員3名を福島県に派遣した。当館職員は、救援委員会事務局、日本博物館協会および福島県関係者からなるチームに参加し、警戒区域内に残された文化財の梱包と輸送にあたった。

## 2. 経費

派遣の費用は通常の予算から捻出した。

## 3. 具体的な作業

## 3-1 富岡町歴史資料館における梱包作業

8月28日、福岡空港から東京へ飛び、東京から列車でいわき市へ向かった。いわき市内のホテルで、救援委員会事務局および日本博物館協会のメンバーからなる福島県外からの参加者と合流した。

8月29日、一同、2台の自動車に分乗してJビレッジに行き、福島県関係者と合流。参加者は計12名であった。

榎葉町公民館分館で梱包材料などを積み込み、防護服を着用し、警戒区域に入った。

10時半ころ、富岡町歴史資料館に到着。機材を降ろし、館内で搬出する考古資料の梱包作業を行った。昼食は持参のおにぎりなどを作業現場で食べ、15時まで作業を行った。自動車で館を出発し、警戒区域を出て、Jビレッジで放射能チェックを受けて防護服を脱いだ。17時半ころ、いわき市内のホテルに戻った。

8月30日も、朝、自動車で榎葉町公民館分館へ行き、防護服を身につけてから富岡町歴史資料館に行き、搬出予定作品の考古資料の梱包を行った。梱包済みの資料は搬出しやすい場所に集めた。14時半に作業を終了し、残った

梱包材料を自動車に積み、榎葉町公民館分館へ。ここで資材を降ろし、警戒区域を出て、Jビレッジで放射能チェックを受けて、いわき市内に戻った。

夕刻、列車で東京へもどり、翌日、羽田空港から福岡へ戻った。

谷 豊信

## 3-2 富岡町歴史資料館から旧相場女子高校への輸送

9月4日、福岡空港から羽田空港に着き、東京文化財研究所にて岡田センター長と打ち合わせの後、上野から列車でいわき市へ向かった。いわき市内のホテルで、東京文化財研究所の北野室長と合流した。

9月5日、一同、2台の自動車に分乗して榎葉町公民館分館に行き、福島県関係者、報道関係者と打ち合わせ、機材積み込みを行うと共に防護服を着用した。富岡町歴史資料館に移動し資料の搬出にあたった。午後から警戒区域内を移動し、仮保管施設となる相馬市の旧相馬女子高校に資料を搬入した。搬入作業と共に収蔵施設内の保存環境について、福島県の担当者と共に調査を行った。16時30分頃に搬入作業を終了し、福島市内のホテルに移動した。

9月6日、福島市内のホテルから自動車相馬市の旧相馬女子高校に移動して、9時から昨日搬入した資料の開梱作業を実施した。また、燻蒸作業を必要とする資料の分類などを行った。夕刻、自動車相馬市内に戻り、夜、列車で仙台へ向かった。翌日、仙台空港から福岡へ戻った。

今津 節生

## 3-3 大熊町民俗伝承館における梱包作業

9月19日、いわき市内のホテルで県外からの参加者および東京文化財研究所担当者と合流。

9月20日、自動車相馬市内のホテルを出発。榎葉町公民館分館で福島県内外の参加者と合流。総勢9名。防護服を身につけ、資材を積み込んだ。Jビレッジを過ぎ、検問を通過

して警戒区域に入り、10時15分ころ、大熊町民俗伝承館に到着。搬出予定資料の梱包を行った。作業は15時で終了。福島第二原子力発電所構内の施設で放射能チェックを受け、楡葉町公民館分館で資材を降ろし、いわき市内のホテルに戻った。

9月21日も、朝、ホテルを自動車で出発し、楡葉町公民館分館で参加者全員が集めた。10時に大熊町民俗伝承館に到着し、15時45分まで梱包作業を行った。この日も福島第二原発構内の施設で放射能チェックをうけ、楡葉町公民館分館で資材を降ろした。自動車であいわき市内に戻り、夜、列車で東京へ向かった。翌日、羽田空港から福岡へ戻った。

臺信 祐爾

#### 4. 成果と課題

福島における被災文化財等救援事業は、福島県関係者と救援委員会事務局の事前調査と打合せの上で実施された。当館職員が参加した段階では、放射能対策や作業手順なども確立し、車両や梱包資材も整っており、能率良く安全に作業を進めることができた。準備に尽力された関係各位に敬意を表するしだいである。

ただ今回の福島県の警戒区域内における救援事業は、参加団体が広がらず、限られた方々が何度も警戒区域内に赴いていた。もっと積極的に参加者を募り、一部の方々だけに負担が集中しないような運営も可能であったのではないかと感じた。



資材供給基地となった楡葉町公民館分館



楡葉町公民館分館に蓄えられた梱包資材



旧相馬女子高校での開梱作業をマスコミが取材



旧相馬女子高校で開梱した資料の放射線量の測定



地震直後の状況のまま（民俗伝承館に隣接する大熊町図書館）



大熊町民俗伝承館での梱包作業風景